

グリーンニュース 第13号

発行年月日 平成13年11月10日
発行責任者 群馬県環境アドバイザー連絡協議会
代表 新井 栄一

環境アドバイザー重点行動テーマ

行動する環境アドバイザー

・・・研修・情報交換の場を広く・・・

新井代表に群馬県環境賞

環境アドバイザー連絡協議会の代表である新井さんに対し、平成13年度の『群馬県環境賞』が、9月30日の環境フェスティバルのおり、環境生活部長から渡されました。

新井さんは、長年の前橋市南橋リサイクルの会での活動と環境アドバイザー代表としての幅広い活動が評価され、受賞のはこびとなりました。

。

マイバッグキャンペーン実施中

本年度も、マイバッグキャンペーン実行委員会と群馬県の共催で、10月1日から12月31日までの3ヶ月間、マイバッグキャンペーンが全県いっせいに実施されています。昨年度は50万枚以上のレジ袋が節約されました。(25,000枚の応募カード回収)今年度は、協賛店も544店(10月30日現在)と増加し、現在県内各地のスーパー・商店等で啓発活動を実施中です。アドバイザーの皆様も、各地域での活動が盛りあがるよう、ご協力をお願い致します。(詳細2ページ参照)

専門部会の実施報告と今後の計画

9月1日(土)に(1)ごみ減量化部会(2)環境教育部会(3)温暖化・エネルギー問題部会の三つの部会が開かれました。(詳細議事録は、3～5ページ参照)

今後は、三部門とも、12月、3月、6月、9月、の第一土曜日に専門部の定例会(勉強会)を行う予定で、次回は12月1日(土)に行われます。アドバイザーの参加は自由です。遠慮せずご参加ください。申し込みは不要です。(案内は6ページにあります)

群馬県環境フェスティバルに参加

9月30日(日)県庁前広場で行われた環境フェスティバルで、アドバイザー連絡協議会は屋外テントの一つを担当し、(1)ヨーロッパ環境視察の写真報告展(2)マイバッグキャンペーンのPR(3)女性会員を中心とした簡素なフリーマーケットを行いました。一般県民の環境への意識は、年々高まっていることが肌で感じられました。

♪ 県からのお知らせ ♪

マイ・バッグで
お買い物！！



1 参加店舗が増えました！！

昨年度の483店舗に対し、本年度の参加は（10月30日現在）544店舗に増え、主なお店は以下のとおりです。（参加店舗数順・敬称略）

2年連続参加店		新規参加店		商店街での参加	
フレッセイ	44店	フジタコーポレーション	30店	富岡市商店街サービス事業共同組合	65店
生活協同組合 コープぐんま	25店	エーコープ群馬	10店	松井田商店連盟	58店
とりせん	24店	前橋市農業協同組合	3店	境町の環境を考える会	44店
ベイシア	22店	(株)スズラン	2店	榛東村商工会	30店
セキチュー	13店	甘楽富岡農業協同組合	2店	伊香保町商工会	19店
ヤナリストアー	12店	高崎市農業協同組合	2店	豊岡地区商店会	18店
スーパー丸幸	6店	他 多数の店舗に参加 いただくことになりました。		甘楽町商業共同組合	15店
しみず	6店			(勢)東村商工会	13店
ヤオコー	5店			榛名町商工会	10店
ベルク	4店			小幡サービス会	10店

2 店頭啓発実施回数

本年度の特徴として、地域ブロック単位で、アドバイザーが中心となり、単独または他団体と連携して、店頭・イベント等での啓発キャンペーンや勉強会を次のように行っています。また、生活学校、生協ぐんまも別途下記のとおりキャンペーンを行っております。

地区ブロック名	啓発回数	月日と店名
前橋	4	10/18 しみずスーパー 他
高崎	10	10/15 ヤオコー井野店 他
伊勢崎	4	10/13 イトーヨーカ堂伊勢崎店 他
境	2	11/18 境町産業展 他
太田	2	10/18 ベイシア尾島店 他
館林	3	11/18 とりせん館林南店 他
桐生	2	10/28 相生公民館 他
渋川	3	10/10 渋川ジャスコ 他
富岡	6	10/27 スーパー丸幸 他
藤岡	2	11/14 スーパー丸幸 他
沼田	2	11/11・12 スリム展 他
中之条	2	10/21 ベイシア吾妻店

計 42回

生活学校		生活協同組合 コープぐんま	
太田	10/18 ユニー太田店	10/28	元総社文化祭
桐生	11/11 産業展	11/5	リセ口細井店
藤岡	1/27・28 市民展	11/6・9	六供店 21日 昭和店

専門部会報告

ごみ問題専門部会

開催日時：平成13年9月1日(土) 13:30～16:20

場 所：県社会福祉総合センター201会議室

出席者 新井代表、新井(高崎)、北爪(境)、田村(新田)、鈴木克(富士見)、鈴木和(富士見)、高梨(高崎)、高橋(境)、井口(藤岡)、茂木(前橋)、六本木(伊勢崎)、池田(沼田)、杉本(高崎)、野村(高崎)、中島(前橋)、吉澤(安中) 計15名

議 事 [司会：新井(高崎)、書記：吉澤(安中)]

1 新井代表挨拶

- (1) かねてより懸案であった横系活動である専門部会が設立され、従来から行われている地域活動(縦系)と併せてより充実した取り組みが期待される。
- (2) 環境アドバイザー連絡協議会が実効をあげるには県の理解、協力を得ることが不可欠。専門部会では県に受け入れられる提案を行い、有効、適切な取り組みを進めたい。

2 本専門部会の取り組みの目的の確認

- ・「ごみ問題部会」発足にあたり、本専門部会の最終目的はごみの減量化であることを確認した。今後、討議を重ねる中でごみ削減に繋がる提案をまとめていく。
- ・ごみ削減取り組みの対象・・・主に家庭から排出される一般ごみ全般(生ごみ、包装ごみ等)とする。

3 ごみ削減の具体的取り組みについて討議

- (1) 討議に先立ち、利根沼田協議会の池田氏より利根沼田保健福祉事務所区域の「ごみ処理の各市町村の対応状況」について調査報告があった。まとめると下記。

同一保健福祉事務所区域であっても市町村によりごみの分別品目、方法、ごみ袋価格等大きく異なる。処理施設は同じであっても市町村によりごみの分別、収集の案内内容が異なる。

- (2) “ごみ処理の有料化”について

“ごみ処理の有料化”はごみ減量化に有効な手段であろう。“ごみ処理の有料化”の具体的方法として、地方自治体(市町村)が指定のごみ袋の販売価格にごみ処理費用を上乗せするかたちで実施しているところがある。

市町村のごみ袋の価格、ごみ処理の方法を調査、分析することで、市町村のごみに対する考え方を知ることができる。これをまとめて、県が市町村に対してごみ減量のため統一した方針を示し、市町村を動かすよう働きかける。

調査内容と方法：下記の内容で調査を行うこととした。

1) ごみ袋価格の調査

- ・調査項目：各市町村のごみ袋の種類(表示されている容量または寸法と用途)と価格
- ・調査方法：県内の保健福祉事務所単位で区分してその区域の環境アドバイザーが分担して調査
前橋(中島)、高崎(高梨)、伊勢崎(六本木)、太田(田村)、沼田(池田)、藤岡(井口)、桐生・館林・渋川・富岡・中之条(鈴木 克)から依頼する。
- ・調査まとめ：11/15までに回収し沼田(池田)提出。(池田)がまとめて次回会議にて報告。

2) ごみ処理法等の調査・・・富士見(鈴木 克)が県の資料をまとめて次回報告。

- (3) ごみ減量、リサイクル活動に取り組んでいる店舗の市町村広報への掲載促進について

各市町村に前橋市が行っている市リサイクル情報紙への「地球にやさしい店舗登録店一覧表」の掲載のように、牛乳パックやトレイの回収や簡易包装の推進等ごみ削減やリサイクル活動に取り組んでいる店舗を広報に載せることを働きかけることで、リユース、リサイクル活動を拡大することになり、ごみ減量に有効ではないか?

具体的な進め方として下記が考えられるが本件は課題もあることから次回改めて議論することにした。

1) 各市町村に、前橋市と同様なものを作るよう働きかける。

2) 各地域の店舗の対応状況を環境アドバイザーが調べて各市町村に持ち込み、広報への掲載を働きかける。

- (4) マイ・バッグ・キャンペーンは浸透しつつあると言えるが、一方、「今のキャンペーンは期間が終わったら終わり。継続するにはどうするか検討要」との指摘もある。 今後、討議する。

(5) その他 下記意見あり

- ・ デポジット制の導入を進めることが望ましい。
- ・ 消費者が家庭ごみとなるようなものを購入しないようにすることが必要
- ・ 今の容器包装リサイクル法は行政に大きな負担がかかる(=税金を使う 消費者の負担)仕組みになっている。我々はトレイやペットボトルを販売業者やメーカーに返却することにより業者・メーカーの処理費負担増 業者・メーカーが負担を減らすための努力(簡易包装化、軽量化等)につながるような取り組みを進める必要がある。

4 次回討議テーマ

- (1) 市町村のごみ袋の種類と価格調査報告と分析、今後の進め方討議
- (2) 各市町村のごみ処理方法の調査結果報告と(1)と合わせた分析と
- (3) ごみ減量化に取り組んでいる店舗の広報への掲載についてその方法
- (4) マイ・バッグ・キャンペーンの継続取り組み策について



「応策の検討

環境アドバイザーの皆さんへ

ごみ減量化のため、今回参加されなかった方も次回、ぜひご参加下さい。
多くの方の智慧を集めてごみ減量化に有効な具体的提案をまとめていきましょう。

環境教育部会

日時：平成13年9月1日

場所：群馬県社会福祉総合センター401会議室

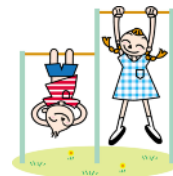
出席者：新井代表、神尾(太田)、西村(前橋)、星野(前橋)、都丸(渋川)

世話人選出 代表：都丸、書記：神尾、西村

議事(過去の会議での討論経過を踏まえ、主題を「学校教育」と「社会教育」に大

1 学校教育・・・子どもの受けた環境教育の知識を学校・家庭と一体で実践に結

- ・ 家庭・学校・地域が一体となって取り組む必要がある。
- ・ 教育委員会・学校当局との意見交換の機会を持って環境アドバイザーがしたい。環境アドバイザーの資格の問題が生ずるか。
- ・ 「こどもエコクラブ」(環境政策課担当)への支援
現状は学校側からの依頼で動いているが、来年度の募集時に「環境アドバイザーが支援する」の一項を入れてもらったらどうか。それに対応できる体制作りが必要。
- ・ 「みんなの環境研究室」(環境政策課担当)への支援ができるか。
教育事務所ごとに5校指定したが今のところ取り組みに温度差あり。
- ・ 「学校/環境教育支援体」(教育委員会担当・・・100校指定)への協力ができるか。



を果た

2 社会教育・・・市民の環境活動を活発化する運動・特に主婦の啓蒙が大事

- ・ 自分自身の環境学習(勉強会・情報交換・共同でイベントを開催など)から始めたい。
- ・ 「環境学習指導員」・「環境美化推進員」のようなものを作ったらどうか。
- ・ 市町村担当部署や商工会その他既存の組織と連携して活動を広めることができるか。グリーンニュースを通じて事例発表するとよい。
- ・ 中小企業へ環境アドバイザーを派遣するのはどうか。県商工部・市町村商工会議所を通じて働きかけるとよい。職場と家庭との関係で父親の役割を考えよう。ISO14001は良い勉強の材料になると思われる

3 共通事項

- ・ 地域環境学習推進事業をもっと広げたい。事業終了後反省会を開催し、失敗談を中心に報告し合うとよい。今年度は推進事業のまとめを書類化する。(事務局)
- ・ 各部会で企画・立案した事業は連絡協議会として県との連携で主催するべきだろう。

(都丸)

温暖化・エネルギー部会

日時：平成13年9月1日(土) 13:30～16:00

場所：群馬県社会福祉総合センター

出席者：菊川、奈良、白倉(前橋)、山口、宮崎(高崎)、斎藤(桐生)、下城、片亀(伊勢崎)、毛塚、半田(渋川)

司会進行 片亀 光 書記 宮崎薩道

まず自己紹介を行い、各人が温暖化とエネルギー問題に関してどのような考え方をしているか発表。

新井代表より、200万県民に地球環境について問題意識を浸透させるためには地域活動だけでは不十分であり、各専門部会が独自性を持って企画立案し活動してもらいたい。ただし各部会が連携をとることが必要との挨拶がなされた。

続いて去る8月11日に行われた準備会について、議事録にそって菊川準備会書記より説明がなされ、規約原案の検討に移り、以下のとおり定めた。

名称 この会は「温暖化・エネルギー問題部会」という。

目的 この会は「温暖化・エネルギー問題」について学習し、啓発、提言することを目的とする。

活動 この会は上記の目的を達成するために、以下の活動を行う。

- 1、 例会(学習会) 原則として3ヶ月に1回開催する。
- 2、 情報伝達は(グリーンニュース)等を活用。
- 3、 講演会・見学会の開催。
- 4、 報告書・パンフレット等の作成配布。
- 5、 その他。

組織 この会は目的に賛同する環境アドバイザーで組織する専門部会である。

世話人会

この会は部会長1名・書記2名・世話人若干名をもって世話人会を構成する。

上記世話人会の任期は環境アドバイザーの登録期間と同じとする。

上記世話人会の再選は妨げず。

事務局 群馬県環境生活部環境政策課地球環境係におく。

その他 この会の規約に定める物のほか、会の運営に必要な事項は世話人会に諮って定めるものとする。なお結果については例会に報告するものとする。

以上の他、会費等の徴収については、他の部会との整合性を調整し後日検討する。

世話人会については下記のとおり互選された。

部会長	菊川 照英
書記	宮崎 薩道、半田 文男
世話人	奈良 博、白倉 泰司、斎藤 雅寿、毛塚 喜之 山口 實、真下 淑恵、唐沢由喜子

なお部会長は連絡協議会の幹事として推薦する。

次に当面の活動として、11月に以下の講演会を開催することを検討中との説明がなされた。

「海外植林活動に参加して」 J A F T A 地球環境部長 馬淵 征雄氏

その他 意見情報交換として、群馬県環境フェスティバルやエコアクション21について説明がなされた。

専・門・部・会・の・ご・案・内

環境アドバイザー連絡協議会主催の専門部会が、次のように行われます。
ご参加ください。



記

日時 平成13年12月1日(土) 午前9時30分~12時 《 共通 》

専門部会名・テーマ・会場

- | | | |
|------------------------------|----|-----|
| A ゴミ問題部会 『ごみ処理の有料化等費用負担について』 | 県庁 | 会議室 |
| B 環境教育部会 『今後の学校教育・社会教育の在り方』 | 県庁 | 会議室 |
| C 温暖化・エネルギー部会 『講演会実施と今後の進め方』 | 県庁 | 会議室 |

費用・申込み とともに不要

注記 アドバイザーの参加は、自由とし、相互の研修・啓発にと意見交換してください。

講演会のお知らせ

A 海外植林活動に参加して JAFTA 地球環境部長 馬淵征雄氏
平成13年11月17日(土) 13:30~15:30 群馬県社会福祉総合センター地下会議室

B

平成13年12月1日(土) 13:30~16:00

当日は土曜日のため、近所に昼食をとるところがありません。そのため、県庁前の群馬会館の地下食堂を交渉してオープンしてもらいましたので、ご利用ください。

環境川柳紹介

平成13年9月9日(日)の渋川市の環境フェスティバルにお邪魔した折り、面白い川柳を拝見しましたので、5首程、皆様にご紹介します。

不景気は
どこ吹く風と
ごみの山



ポイ捨てを
孫と拾って
躰説く



「ただいま」と
家庭に戻る
再生紙



利己主義が
子孫に残す
ごみの山



金を食う
ペットボトルの
リサイクル